



大林監督からうれしいお手紙をいただきました

2003.1.29

フロム市長 ←→ トゥ市職員

576

大林宣彦監督より、私と臼杵市役所の皆さん宛に手紙をいただきました。今回はその手紙の内容と、手紙の中に書かれている「講演」での監督の発言要旨をお知らせします。

皆さん。

新年も元気良く、出発された事と思います。さて、先日、違法の上層部分20メートルを撤去させよという異例の判決が出た国立市の高層マンション問題に私が参加した際、《なごり雪》上映と講演を通じて臼杵のあり方が参加者の大いなる共感を呼びました。

その時の事が、同封のチラシに色々出ています。《なごり雪》がこんな形で役立つことも、臼杵市民の誇りですね。

ぼくも嬉しいです。

とり急ぎ、御報告まで。

大林 宣彦

2003.1.22

後藤 國利さま
臼杵市役所皆さま

P.S.今年も発展的に、色々と。・・・

～2002秋のイベント「映画『なごり雪』上映と大林宣彦監督の講演会」より～

(2002.11.23 東京都国立市)

まち守りには「とどめる」ための「知恵」が必要。みんなで「夢」を育てよう。

・・・(略)・・・

スクリーンに映し出された、人々の温もりが感じられるどこか懐かしい町並みは、今の臼杵の町そのもの。「28年前の日本を描くために、CGやセピアに染めるといった画像処理を一切施さずとも、現在の臼杵をそのまま撮ればよかったのです」28年前を描くためにしたものは、俳優たちに美しい日本語を話させることだけでした。

「まちのこし」 “wait” 待って残す。今これがよいのかどうか分からないのなら、その良さが分かるまで待って残す。これが臼杵の町の選んだ道。落ちこぼれて残ったのではなく、やせ我慢の美しさ、武士道の美しさ、凜とした美しさ。その臼杵の町と出会い、「臼杵で21世紀最初の仕事をしよう」と即断されたそうです。

・・・(略)・・・

「これから私たちは何をすればよいのか、もう皆さんすでに気がついておられるでしょう。私たち日本人は、『もう物とお金はいらぬよ。もうそのために心まで売り渡すことはしない』と気がついたのです。子どもたちが夢を持って生きていけるようにするのが、私たち大人の責任であることを学びました。今私たちが『正気』にならないといけぬ。正義と正義がぶつかりあっても何も解決しません。どうぞ皆さん、自身を持ってください。そして皆さんの日々の夢を育てて頂きたいと思います。」